

第81回 日本ユネスコ運動全国大会 in 金沢に参加して

大会は10月18日、金沢市の石川県立音楽堂邦楽ホールにおいて、約350名（ボランティア100名含む）が参加して開催されました。大会テーマは“『日常』能登半島の創造的復興を目指して”です。能登半島地震及び奥能登豪雨を経て2年経過しようとする現状で、単なるインフラなどの再建のみならず、美しい自然と豊かな文化を育んできたこの地に、持続可能なコミュニティの再構築が求められており、われわれができることは何かを考える機会となりました。

大会オープニングは、小・中学生によるジャズ演奏です。すぐさま、会場が和やか雰囲気になりました。

開会式では石川県ユネスコ協会の震災後の復興に向けての取組み、石川県の小中学校のユネスコスクール活動、白山手取川ジオパーク、金沢の伝統文化と自然を満喫していただきたい旨などのお話がありました。また、休憩中に飛込みで俳優の西村まさ彦様をご挨拶されるサプライズもありました。

続いて、特に感銘を受けた子どもたちによる能と狂言の披露です。本格的な文化が『日常』の中に引き継がれていました。

休憩をはさみ、「井上あずみ&ゆーゆ」のコンサートです。「となりのトトロ」など馴染みの曲を聞き入り、読み聞かせ、「ユネスコの歌」を一緒に歌えた事など楽しい時間を過ごさせていただきました。

そして、メインのパネルディスカッションです。コーディネーターの方から「人間と自然がどのように共存するか」「自然の猛威に対してどのように助け合うのか」との問題提起から始まりました。一人ひとり違う世界観から挑戦的に小さな世界都市を創ろうとする試み、白砂青松の能登の自然、世界農業遺産（能登の里山里海）、夫婦岩、スイカ、ころ柿、甘えび、カニ、キリコ祭り、そのような能登の色々な資源を背景に、日々、生活再建など復興に取り組む自治体の意気込み、防災士であり避難所管理者唯一の女性としての「だれひとり取りこぼさない」といった熱い気持ち、明治創立の酒造会社が、能登産の原材料にこだわり、旧態依然とした職場環境を持続可能なカタチに改善していく姿、「味噌汁が上手くないのはお椀のせい」と言われて、輪島塗の良さを一途に求め続けながら、伝統工芸レンタルや伝統工芸品だけで食事ができるレストランなどの取組み、自然と共生を考え、女性や若者が夢をもって幸せに働くアクセサリー工房のお話、奥能登6市町の代表者が被災後のご苦労も踏まえて話し合う場となりました。

印象に残ったお話の内容として、震災後の避難や避難所に関することで、志賀原子力発電所の被害の有無が一番気になった事柄でしょうし、避難所運営についても、トイレ問題から男尊女卑の古い意識の存在の指摘もありました。商品

が残っていれば、仕事ができるとの見地から、インバウンド&アウトバウンドに力を入れ、外部の助けを得ながら 95%が県外の売上げの実績となったとの事例もそうです。また、200 以上あるキリコ祭りの『日常』の営みのおかげなのか、震災の緊急避難で高台に上がった時、誰がいなかったかが分かったとの話から「新しいものの考え方と古き良き価値観の融合」の道もあるのかなと思いました。お話の内容は、前向きな部分が多く、むしろ、参加された皆様が勇気付けられる内容ではなかったかと思います。

2026 年度の全国大会は、福岡県久留米市です。箏曲の発祥の地ですのでお琴でのお出迎えを楽しみにしていただきますとのこと。

＜大会参加者＞ 政木恵美子・高田幸子・平井 勇



オープニング



大会実行委員長
石川県ユネスコ協会副会長あいさつ

日本ユネスコ協会連盟会長あいさつ



子どもたちによる
伝統芸能



井上あずみ&ゆーゆ



パネルディスカッション